助成事業実施報告書

令和5　年　　4月　23日

助成事業実施報告書

団体名 にぎやかごはんチーム

代表者・役職名 氏名　　藤本　晃

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書（精算報告書以外）は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真（2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します）を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

にぎやかごはん

2. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）　300文字程度

キャッチコピーは「みんなで食べるごはん、おいしいよ！」です。
「食堂」というよりは、大きな家族の食事作りと団らんの場として活動しています。
どなたでも予約なく参加でき、来た人はそれぞれ自分に合った役割を見つけてそれを担当します。野菜を切る人、混ぜる人、味付けに真剣になる人、盛り付けに凝る人、配膳する人、子守をする人、おしゃべりする人、ゴロゴロする人、遊びに夢中になる人、などなど、役割は人それぞれです。家族で何かを行なう場合と同じ感じです。
それでも、全体としてはてきぱきと作業が進み、美味しく温かい食事ができあがります。
みんなでいただきますをして、できばえを褒め合いながら、おしゃべりも楽しみつつ食事をします。
それから、デザートもいっしょに手作りします。こどもたちは腕まくりをして、盛り付けや飾りつけなど、思う存分創意工夫を楽しみます。
ここは田舎ですが、昨年になってコロナ感染者数がけっこう増えました。その影響で、宣伝告知をせず、こじんまりと行ないました。それでも、知っている人たちは通って来られました。
また、同じ理由で、新規企画をスタートすることができませんでした。中学生のテスト期間の居場所（勉強場所）づくりです。一つの部屋で複数人が長時間勉強することになりますので、実施の相談、告知についてためらわれました。次年度の課題としたいと思います。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』　300文字程度

10回開催。毎回、15～20人程度の参加者がありました。
小規模の開催でしたが、その代わりに、子どもたちとの触れ合いは濃くなり、子どもたちも積極的に関わってくれるようになりました。メニューを決める際も、子どもたちからリクエストがあがり、一緒に相談して決める場面がありましたし、レシピを送ってくれることもありました。調理においてはますます子どもたちの主体性が生まれ、「これはこうやってみよう」「こんなふうにやればうまくできるのでは」といった創意工夫が次々と出てきます。時にはおもしろ作品も生まれますが、楽しい一コマです。
地域のご高齢の方の参加も増えました。世代を超えて会話が弾んでいます。
「にぎやかごはん」ではじめて、おっかなびっくり包丁を持った子どもたちが、しっかりと成長していくのを見ることはスタッフの楽しみです。月に一回ではありますが、子どもたちにとって、何らかの「自信」になっていることを感じられ、やってよかったと思えます。
夕方はなかなか閉じることができないほどですが、みなさんが掃除にもご協力くださり、最後は子どもたちのお尻を押すようにして帰られる様子は、微笑ましい一幕です。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など　300文字程度

実施内容については、次年度も同じようにやっていこうと計画しています。
コロナが収束を見せていますので、宣伝告知を再び始めようと思います。
新たな方々が来られることで、ますます活気が出ることでしょう。
中学生のテスト期間の居場所づくりについて、企画をすすめていきたいと思います。